

借受希望者募集区域（農業振興地域）の概要

整理番号	区域 (公募の単位)		特徴	担い手の多寡
1	神戸市	北区	山あいの農地が多いが、基盤整備済みのものが多い。 昼夜の気温差が大きく、その寒暖差を利用して水稲が盛んである。	十分な担い手がいる
2	神戸市	西区	農地の大半が平野部で、ほぼ基盤整備済みである。 都市部に近く、軟弱野菜、水稲ともに盛んである。	十分な担い手がいる
3	宝塚市	全域	農業振興地域は北部地域のみであり、農地の大半が水田である。水稲以外では野菜栽培等を行う。農業振興地域のうち約7割が基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
4	三田市	全域	農地の9割が水田を占め、約7割が稲作である。水田のほとんどが基盤整備済みである。	十分な担い手がいる
5	猪名川町	全域	中山間地域で狭小な農地が中心となるが、1/2程度が基盤整備である。	十分な担い手がいない
6	明石市	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
7	加古川市	全域	農地の大半を水田が占め、市内のほ場整備は85%が完了している。	十分な担い手がいない
8	稲美町	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
9	西脇市	旧西脇市	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
10	西脇市	旧黒田庄町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
11	三木市	旧三木市	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
12	三木市	旧吉川町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
13	小野市	全域	農地の大半を水田が占め、8割程度基盤整備されている。	十分な担い手がいない
14	加西市	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる

15	加東市	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
16	多可町	旧中町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
17	多可町	旧加美町	中山間地であるが、農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
18	多可町	旧八千代町	山間地域で農地が少なく基盤整備が未実施なものが含まれる。	十分な担い手がいる
19	姫路市	旧姫路市	農地の大半を水田が占めているが、一部、基盤整備が未実施の地区がある。	十分な担い手がいない
20	姫路市	旧夢前町	中山間地域で農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
21	姫路市	旧香寺町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
22	姫路市	旧安富町	中山間地域で農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
23	神河町	旧神崎町	神河町全域で農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みである。南部では、担い手（集落営農組織、認定農業者）がいるが、北部では南部と比べると気象条件も悪く、受け手になる担い手がいない。	十分な担い手がいない
24	神河町	旧大河内町	神河町全域で農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みである。南部では、担い手（集落営農組織、認定農業者）がいるが、北部では南部と比べると気象条件も悪く、受け手になる担い手がいない。	十分な担い手がいない
25	市川町	全域	中山間地域で農地の大半を水田が占め、農地の2/3が基盤整備済みである。	十分な担い手がいる
26	福崎町	全域	農地の大半が水田を占め、基盤整備率は60%である。	十分な担い手がいない
27	相生市	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
28	たつの市	旧龍野市	平坦な農地が多く、大半が水田地帯である。	十分な担い手がいない
29	たつの市	旧新宮町	山間地域で農地は少ないが、地区全体において基盤整備が進んでいる。	十分な担い手がいない

30	たつの市	旧揖保川町	平坦な農地が多く、大半が水田地帯である。	十分な担い手がいない
31	たつの市	旧御津町	平坦な農地が多く、地区全体において基盤整備が進んでいる。	十分な担い手がいる
32	赤穂市	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
33	宍粟市	旧山崎町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
34	宍粟市	旧一宮町	山間地域であるが、全域で基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
35	宍粟市	旧波賀町	山間地域であるが、全域でほぼ基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
36	宍粟市	旧千種町	山間地域であるが、全域で基盤整備済みである。	十分な担い手がいない
37	太子町	全域	農地の大半で水稻や野菜栽培が実施されているが、基盤整備が未実施なものが多い。	十分な担い手がいない
38	上郡町	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいる
39	佐用町	全域	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
40	豊岡市	旧豊岡市	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
41	豊岡市	旧城崎町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
42	豊岡市	旧竹野町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
43	豊岡市	旧日高町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
44	豊岡市	旧出石町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない

45	豊岡市	旧但東町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
46	香美町	旧香住町	山間地域と比較的規模の大きい整備済み地域の両方がある。また、果樹栽培が盛んな地域を含む。	十分な担い手がいない
47	香美町	旧村岡町	山間地域で農地が少なく基盤整備が未実施なものが多い。	十分な担い手がいない
48	香美町	旧美方町	山間地域で農地が少なく基盤整備が未実施なものが多い。	十分な担い手がいない
49	新温泉町	旧浜坂町	基盤整備済みの水田が多く、平地部分も広がっている。	十分な担い手がいない
50	新温泉町	旧温泉町	中山間地域で基盤整備が未実施なものが多い。	十分な担い手がいない
51	養父市	旧八鹿町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
52	養父市	旧養父町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
53	養父市	旧大屋町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
54	養父市	旧関宮町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
55	朝来市	旧生野町	中心部には農地が少ないが、中山間地域には農地があり、その大半が水田地帯である。ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
56	朝来市	旧和田山町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。水田地帯である。	十分な担い手がいない
57	朝来市	旧山東町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
58	朝来市	旧朝来町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
59	篠山市	篠山地区	農地の大半が水田を占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない

60	篠山市	城東地区	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない
61	篠山市	多紀地区	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない
62	篠山市	西紀地区	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない
63	篠山市	丹南地区	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない
64	篠山市	今田地区	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯であり、水稻、黒大豆栽培を中心とした中山間地域である。	十分な担い手がいない
65	丹波市	旧柏原町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
66	丹波市	旧氷上町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
67	丹波市	旧青垣町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
68	丹波市	旧春日町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
69	丹波市	旧山南町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
70	丹波市	旧市島町	農地の大半を水田が占め、ほぼ基盤整備済みの水田地帯である。	十分な担い手がいない
71	洲本市	旧洲本市	農地の大半を水田が占め、全体の約3分の1が基盤整備済である。北西部には不整形な棚田が広がる。	十分な担い手がいない
72	洲本市	旧五色町	農地の大半を水田が占め、全体の約2分の1が基盤整備済であるが、中山間地域であり傾斜地が多い。	十分な担い手がいない
73	南あわじ市	旧緑町	水稻＋野菜の三毛作体系の農業を展開している。広田地区は倭文地区と比べると平野部が多い。倭文地区は中山間地域であり、果樹の栽培も行われている。	十分な担い手がいない
74	南あわじ市	旧西淡町	水稻＋野菜の三毛作体系の農業を展開している。また松帆・湊の中山間地域において果樹の栽培も行われている。	十分な担い手がいない

75	南あわじ市	旧三原町	水稲＋野菜の三毛作体系の農業を展開している。三原平野の中心に位置しており、基盤整備も進みつつある。	十分な担い手がいる
76	南あわじ市	旧南淡町	水稲＋野菜の三毛作体系の農業を展開している。平野部では基盤整備が進みつつある。灘地域においては、果樹及び花卉栽培も行われている。	十分な担い手がいる
77	淡路市	旧津名町	基盤整備がある程度整備されている地区であり、集落によっては集積可能な個所もある。	十分な担い手がいない
78	淡路市	旧淡路町	農地が少なく、農業を営んでいるのは、山間地域の一部である。	十分な担い手がいない
79	淡路市	旧北淡町	基盤整備済の集落や今後基盤整備を実施する集落もあり、農地集積が期待できる地域である。	十分な担い手がいる
80	淡路市	旧一宮町	基盤整備済の集落や今後基盤整備を実施する集落もあり、農地集積が期待できる地域である。	十分な担い手がいる
81	淡路市	旧東浦町	他地区に比較して農地が少ないほうであるが、花卉栽培が盛んな地域である。	十分な担い手がいる